

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.1)

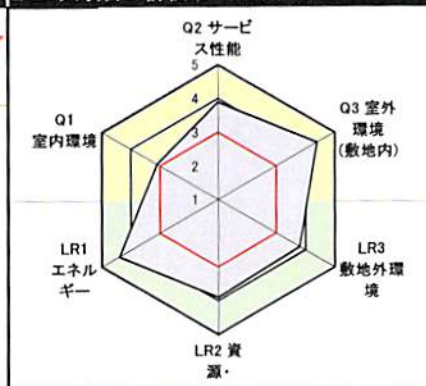
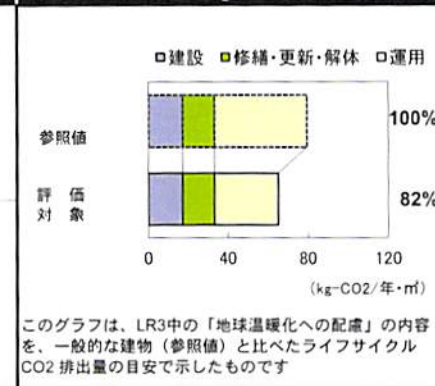
1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	京大(桂)総合研究棟Ⅲ	階数	地上3F、地下3F
建設地	京都市西京区京都大学桂	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域	平均居住人員	3,100 人
気候区分	地域区分Ⅳ	年間使用時間	2,500 時間/年
建物用途	学校、工場	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2012年9月 竣工	評価の実施日	2010年12月28日
敷地面積	57,942 m ²	作成者	昭和設計・大林組
建築面積	9,476 m ²	確認日	2010年12月31日
延床面積	28,415 m ²	確認者	小西 正男



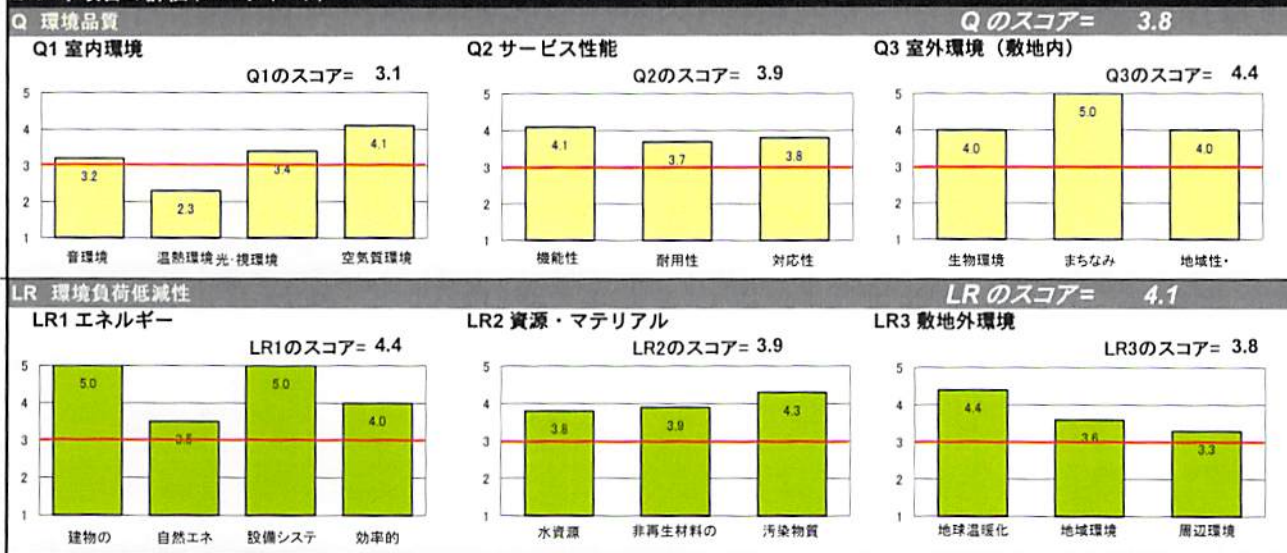
2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



2-2 大項目の評価(レーダーチャート)

2-3 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
耐震安全性の分類は「官庁施設の総合耐震計画基準」の規定によるⅡ類とし、重要度係数は1.25以上とする。		・建設廃棄物発生量を15kg/m ² 以内(うち混合廃棄物量5kg/m ² 以内)に削減 ・資材のユニット化搬入、仮設材の繰り返し利用、再利用型梱包材使用により現場廃棄物を削減
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・遮音性能が高い。 ・化学汚染物質の発生を抑制する材料の選定	・バリアフリー計画としてユニバーサル仕様の多目的便所を計画 ・各室の機能・特性に応じた内装計画 ・メンテナンスしやすい仕上材の採用と十分な広さと機能	・外構緑地面積を広く確保 ・周辺環境に配慮した落ち着いた外装を計画 ・講義室やカフェテリアを地域住民に開放 ・空地部分には芝生を植栽
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・低いP A L値239.2MJ/m ² ・年(基準値320.0MJ/m ² ・年) ・E R R(一次エネルギー消費低減率)25.1% ・用途別エネルギー使用量の把握(エネルギー使用量の「見える化」)	・節水型衛生器具の採用 ・雨水利用の実施 ・既存建築躯体(壁壁)の継続使用 ・リサイクル材(ビニル床材、タイルカーペット、ルーフィング)の採用	・温暖化環境の事前調査、対策の実施(卓越風、自然エネルギー利用)、シミュレーションの実施 ・駐車台数の確保 ・ごみの減量推進

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される